

ランベス・コール キリスト者の一致

最後に言います。皆思いを一つにし、同情し合い、きょうだいを愛し、憐れみ深く、謙虚でありなさい。1 ペト口 3:8

1 宣言

私たちのエキュメニカルな物語

- 1.1 100 年あまり前、1920 年のランベス会議に集まったアングリカン・コミュニオンの主教たちは、「全キリスト者への要請 (An Appeal to all Christian People)」を発表した。その中で、彼らは、可視的に統合された教会における全キリスト者の一致を求める情熱的な望みを語った。そして、それは福音における和解の力を証しし、すべての国々に悔い改めと信仰を呼びかけることであった。2022 年のランベス会議に主教として集まる私たちは、改めて彼らの呼びかけを聴き、教会の一致のために努力することを、今、私たち自身が約束する。
- 1.2 「全キリスト者への要請」は、19 世紀後半に始まった世界的なエキュメニカル運動への聖公会の関与において、衝撃的で心を揺さぶる一步を示すものであった。以来、この運動は大きく進展し、異なるキリスト教伝統間の関係は変化し続けている。もはや互いに見知らぬ者同士でもなく、潜在的な敵同士でもなく、交わり (コイノニア) と宣教 (ミッション) を深めるために大きな働きがなされてきた。聖公会は、南アジアでいくつかの教会の連合に参加しており、フルコミュニオンに関する世界規模また地域的な協約にも参加している。私たちは、ユトレヒト同盟とのボン協定及びいくつかのルーテル教会との温かく前向きな多くの交わりの関係を引き続き喜びとする。世界教会協議会 (WCC) のような多教会間の機構への参加など、参与や対話に関する他の合意もある。
- 1.3 今日のエキュメニズムには多くの形態がある。教会が平和と正義の問題に関して協力してきたところでは、私たちの共同の生活と証しとが計り知れないほど強められた。各教会は、環境問題や被造物の保全について、ますます話し合いと協力の度合いを深めてきた。私たちは、霊的なエキュメニズムの成長と、キリスト者が共に祈るという実践 (時には、ランベス公邸を拠点とする聖アンセルム共同体のように意図的に形成されたエキュメニカル共同体の文脈において) を歓迎する。

継続的な課題

- 1.4 しかしながら、近年、信仰と職制の問題における一致へ向けた進展は鈍化している。教義上の問題における相当な程度の意見の一致にもかかわらず、統治の形態に関する合意はより困難なことが明らかになっており、各教会における異なる統治の形態や教会の慣習は、容易には調停できない。地域のレベルにおいては、ルンド原則 (教会は「信念の深い相違により、別々に行動することがやむを得ない」場合を除いて協力するよう努めるべきであるという原則) が一般に認められているが、それを実行に移すことは困難なこともある。
- 1.5 教会の不一致は、キリストの体における継続的で有害な傷である。私たちは、洗礼を受けた人々の間にある分裂によって、 sacrament と職制の相互承認を欠き、聖餐を分かち合うことができないという悲しみが続くことで、互いに離れていくことを残念に思う。世界の多くの地域で、政府による規制や迫害、さらにはテロリズムによって、キリスト者の生活と証しが脅かされている時に、このような分裂は、和解の福音に対する教会の証しを弱めるものである。

2 確認

私たちの聖公会としての関わり

2.1 「シカゴーランベス四綱領」(1886/1888)を始めとして、私たちが求める一致という目標について、多くの定義がなされてきた。全聖公会中央協議会(ACC-14、2009)は、以下の「エキュメニズムの四原則」を採択した。

- ・ **目標 (Goal)**：教会の完全な組織的一致、
- ・ **課題 (Task)**：相互に教会を認識し、受け入れること、
- ・ **過程 (Process)**：段階ごとの一致、
- ・ **内容 (Content)**：共通の信仰、 sacrament と職制。

2.2 アングリカン・コミュニオンの主教である私たちは、今、キリストの体である教会の一致を求める約束を再確認する。ペトロの手紙一の学びの中で、私たちは、教会が神の創造物であり、唯一の礎石であるイエス・キリストの上に築かれたものであることを再認識した。神の使命において、教会は「選ばれた民、王の祭司、聖なる国民、神のものとなった民」の一人であり、「[私たちを] 闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある顕現を、あなたがたが広く伝えるため」に召されたのである(1ペトロ2:9)。

2.3 それゆえ、私たちは次のことを確認する。

2.3.1 アングリカン・コミュニオンに属する教会は、唯一で、聖なる、公同で、使徒的な教会の一部であること、

2.3.2 アングリカン・コミュニオンの召命には、キリストの教会の目に見える一致を求めることへの取り組みが含まれること、

2.3.3 私たちの分裂にもかかわらず、私たちは他のキリスト教会のうちに、聖霊の働きの実り、福音の宣言への献身、そして私たち自身の生活の中で大切にしている、イエスの sacrament の制定への忠誠を認識すること、

2.3.4 教会生活のあらゆる次元において、聖公会の教会は、他の教会から交わりと伝統を学ぶことができ、また学ぶことにより恵みの賜物を受けることができること、

2.3.5 聖公会員は、神の意志であり私たちの召命であると私たちが信じる場所の完全な組織的一致への道において、可能な限り他の教会と共に宣教と奉仕の働きに関して協働すべきであること。

3 具体的な要望 (コール)

3.1 行動の呼びかけ

私たちは、コミュニオンの一致の器に、アングリカン・コミュニオンの教会に、そしてそれに連なる人々に、次のことを呼びかける。

3.1.1 教会の完全な組織的一致を、喫緊に探し求めるという決意を新たにすること、

3.1.2 エキュメニカルな関係の成果を受け、これをさらに推し進めていくこと、

- 3.1.3 それぞれの管区において、他の諸教会との強く親密な関係を築くこと、
- 3.1.4 アングリカン・コミュニオン内の意見の不一致により、同じアングリカンの伝統の中にありながら、分裂した教会やグループが設立されたことを認識し、聖公会の交わりの内においても和解と一致を求めること、
- 3.1.5 キリストの良き知らせを宣べ伝え、世界の必要に応えるという宣教の務めのために、他の教会の兄弟姉妹と共に働くこと、
- 3.1.6 体の一部が苦しんでいるとき、全身が共に苦しむのであるから、迫害されている兄弟姉妹と共に、その人々のために、その人々に代わって、声を上げること、
- 3.1.7 他の教会の中で何が最善かを見て、私たちとは異なる伝統の豊かさから私たちが受け取るものを探し求めること、
- 3.1.8 可能な場合には他の教会との公式の交わりの関係を確立し、完全な組織的一致という目標に向けて共に努力しつつ、地方的、地域的及び世界的なレベルにおいて、キリスト教会の完全な可視的交わりに対する妨げとして残っている、それらの神学上及び教会論上の相違を克服するための対話の機会を求めること。

3.2 エキュメニカルな招き

世界教会協議会(WCC)「信仰職制委員会」の文書『教会：共通のビジョンに向けて (The Church: Towards a Common Vision)』は、エキュメニカルな働きを、「信仰における一致、 sacramentalな生活における一致、奉仕における一致」に向けた教会への呼びかけとして記している(第 67 段落)。この精神において、私たちはエキュメニカルなパートナーを以下の働きに招く。

- 3.2.1 キリストにある生活の深さと多様性、そしてお互いから学ぶうことを理解するように、私たちに援助すること、
- 3.2.2 福音を宣言し、教会の生活を新たにし、共通善を目指して社会に奉仕するための地域的な取り組みにおいて、近隣の聖公会の教会を招いて協働すること、
- 3.2.3 信仰という共通の遺産の豊かさと、神が私たちの別々の歴史と経験の中で私たちに与えてくださった特別な賜物を分かち合うため、私たちと共に働くこと (1ペトロ 4:10 参照)、
- 3.2.4 私たちと共に、完全な組織的一致へと至るステップを追求すること、
- 3.2.5 エキュメニカル運動の成果に感謝する中で、すべての人が一つであるように(ヨハネ 17:21)という主ご自身の祈りを常に思い起こしつつ、生活や奉仕の働きにおけるエキュメニカルな努力を真摯に受け止めるよう、お互いに強く求め合うこと。

4 実施

- 4.1 アングリカン・コミュニオンに属する教会、及びコミュニオンの一致の器における、このコール（呼びかけ）の実施を奨励し見守る任務は、主として全聖公会中央協議会(ACC)にあり、「世界聖公会一致・信仰・職制常置委員会」(IASCUF0)及びアングリカン・コミュニオン事務局(ACO)を通じて活動する。
- 4.2 私たちは、ACC 及び ACO 総主事に対し、この任務を可能にするために必要十分なリソースが利用可能であることを保証するよう求める。



- 4.3 私たちは、IASCUFO に対し、進捗状況を見守り、監督し、定期的に ACC に報告するよう求める。
- 4.4 私たちは、所属教会に対し、ACO の信仰職制一致部門を通じて、この分野における進展と課題について定期的に IASCUFO に報告するよう求める。